

若かりし日の記憶



5-078

戦後60年を迎えた今、かつて山科に住んでいた人々が体験した記憶すべき写真。女子は良妻賢母をめざして、お茶やお花、裁縫のお稽古に勤しみ、男子も早くから一人前になるよう期待されていた時代でした。



5-004

お茶の稽古

女子生徒が半円を描いて座り、茶道の作法を習っています。中央にあるのが茶釜、その手前には茶筒や茶筅などが見えています。
(昭和10年頃、西野大手先町)



21-025

京都薬学専門学校 門前

京都薬学専門学校の学生さん達。京津国道（三条通）に面した石造りの校門前にて。戦時中は国民報が支給されました。
(昭和18年、御陵中内町)



38-009



5-042

軍事教練？

軍隊か中学校の軍事教練か定かではありませんが、真剣な表情が窺えます。戦時中の四ノ宮周辺は、まだまだ野原が広がっていました。
(昭和10年代後半、四ノ宮柳山町)

山階補修学校女子部（3年制）卒業記念

現在の高校2年生に当たります。当時は、高等科を卒業すると、花嫁修業としてさまざまな手仕事を習得するために、学校に通いました。山階補修学校は、昭和11年に山階実務女学校になりました。
(昭和8年、西野大手先町)



5-070

山階実務女学校（3年制）卒業記念

左上の写真と比べると、7年の違いですが、着物に袴（はかま）姿から、セーラー服とブレザーになりました。履物も下駄から革靴へと変化しています。
(昭和16年、西野大手先町)

お花の稽古

女子生徒が竹製の花筒にめいめいの思いで花を生けています。中央でお手本を見せていくのは、ご住職のようです。
(昭和17年頃、西野大手先町)



15-005

お裁縫の稽古

机の上には、握りばさみや竹の物差しが置かれています。「今の盐のようで、近所の娘さんたちが、夕方から夜8時頃まで、裁縫を書いていました（薬師寺さん）。」
(昭和10年頃、東野八反畠町)

京都薬学専門学校 門前

京都薬学専門学校の学生さん達。京津国道（三条通）に面した石造りの校門前にて。戦時中は国民報が支給されました。
(昭和18年、御陵中内町)



38-009

衣装のお披露目

折り鶴柄の着物や菊模様の黒留袖、並にボタンの色打ち掛けなど、座敷いっぱいに広げられた晴れ着一式。
(昭和12年頃、御陵御廟野町)



18-005

嫁入り道具

着物に虫がつきにくいといわれる楊のタヌク、蝶鉢（らでん）絞工の鏡台、漆（うるし）の椀に真綿（まわた）の布団とそれは豪華！
(昭和12年頃、御陵御廟野町)



18-006

大会優勝記念



5-006

青年団野球部の優勝を記念して、着ているユニホームのロゴは東野の「H」。当時としては珍しく、スパイクを履いている人もいます。
(昭和初期、東野門口町)

疏水通路橋

安祥寺川と疏水が交差する東側（疏水上流側）に架かる通路橋から飛び込む青年。当時の疏水にはまだ橋がなく、地元の子どもたちの格好の水泳場でした。
(昭和6年、安朱中満町)

水泳部？ 疏水のふちにて

こちらは京都薬学専門学校の学生さん達。つなぎの水着姿の中に1人、ふんどし姿の青年もいます。
(昭和8年頃、場所不明)



38-008

研究室での実験風景

白衣をまとう京都薬学専門学校の学生さん達です。ガラス製の装置を使って、実験中のようです。
(昭和8年頃、御陵中内町)



38-007

祭り神輿衆

三ノ宮神社のお祭りの日のひととき。若者に埋もれて神輿の屋根の部分と担ぎ棒の部分がかかる見えています。背後の樹木は「京都市の巨樹名木」に掲載されている三ノ宮神社のご神木。
(時期不明、東野八反畠町)



15-008

消防分団

東野公会堂前で、記念写真を撮る山科南消防組の若い衆。左端には放水ノズルを持ったハチマキの青年、中央には前数人が幕口、後ろ数人は「字東野」と書かれた高張り提灯を持っています。右には脚絆を巻いた青年や後ろにハシゴも見えています。
(昭和初期、東野門口町)



18-005

28